

授業科目	文学				単位	2		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	NU10403J		
開講年次	1	開講時期	後期	該当DP	DP1-1			
担当教員	戸田 由美							
授業概要	<p>まず、あなた方が、日頃あたりまえに考えていることや、気が付かなかった面白い話をいたします。視点を変えて物事を見ると、意外にもそこに重要な意味があったりします。そういったことを前提にして文学的考察に入ります。</p> <p>この学びは、文学作品はもとより、生きている現象のすべてを対象とし、それを分析し、自分の考えで語ることができるのか、否か、…自分の言葉で表現できるように世界に向けて発信するための授業です。したがって、「文学とはなにか」…「文学とはあなた方にとってたいせつな実学」であることをまなびます。そのためにあらゆる視点から、テーマを定めて、幾多もの方法で考察します。</p> <p>目からウロコの大きな発見があることでしょう。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>1、多角的に視野が広がり、柔軟な発想ができる。</p> <p>2、読解力が向上し、文学の基礎的知識を習得できる。</p> <p>3、文学の背景にある日本文化および西欧文化の理解を深めることができる。</p>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	50	0	20	30	100	
知識・理解 (DP1-1)			50		20	30	100	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
習得した文学的センスを生かし、豊かな表現力と柔軟な発想でもって、様々な事柄を、相手に魅力的に伝える能力を兼ね備えていること。				こころとことばの深い関係性について習得し、正しい日本語を用いて美しく表現できる能力を併せもっていること。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)

1	今、なぜ、文学なのか。 あなたは、「文学」をどのようにとらえているのか。 その意義とは？	講義	復習すること	20
2	「文学的エステの世界」 エステサロンではありません。 日本文化をあらわすキーワードはなにか？	講義	復習すること	20
3	『からだことば』って何でしょう。 そのおもしろさを解説します。	講義	自分との関係性を考えながら 復習すること	30
4	ころとことば (1) 日本で一番古い愛の表現とは？	講義	復習すること	30
5	ころとことば (2) 太陽の色は何色？ 国際的視点で考えるとどうなるのか？	講義	復習すること	30
6	ころとことば (3) アメリカの図書館にねむる文献の紹介 明治期の隠された真実…戦争文学について	講義	現在と過去の事情を考えてみ る	20
7	嘘つきのパラドックス 4千年解けなかった事実と表現にせまる	講義	復習すること	20
8	源氏物語、光源氏の愛し方、愛され方、 あくまで文学的表情のなかで…	講義	予習してのぞむこと	20
9	ベストセラー小説の意義について なぜ、その本はベストセラーになったのか？	講義	現代社会において必ず考えな ければならない問題を考察す る	20
10	外国映画を鑑賞する 家族の肖像を物語る作品をみる	講義	登場人物の発言の中で、感動 的なシーンをふりかえってみ よう	20
11	障がいテーマにした文学について	講義	復習してこのテーマについて 考えてみよう	20
12	文学と性教育について、その関係性とは？	講義	復習すること	30
13	伝記、歴史文学について	講義	今まで読んだ本を思い返して みよう	20
14	昔話と日本人のころ 昔話を例にしてその意義を説く。	講義	復習すること	20
15	まとめ	講義	復習すること	20
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				

24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	新聞を必ず毎日よむこと。			
テキスト	使用しない。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	必要に応じて講義中 配布する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	従来の国語学習とは異なる日本文化、あるいは日本語への新しいアプローチとなるので、講義中理解できなかったところは、必ず、質問すること。			
達成度評価に関するコメント	全ての総合点で成績をつけますので、無遅刻、無欠席をこころがけてください。 「その他」では、授業への積極的な受講態度を評価します。			

